

第2章

計画の目指すべき姿

1 計画により目指すべき将来

本計画では、県民、環境NPO、事業者、行政などが共通の認識を持ち、社会すべての構成員の参加と協働により環境保全への不断の取組が継続され、さらに、環境を核とした地域の活性化や地域産業の実現がなされている社会、即ち

「より良い環境に恵まれた持続可能な社会」

を目指すべき姿とし、その実現に向け、

「地域から取り組む地球環境の保全」

「循環型社会の形成」

「安全な生活環境の確保」

「自然と共生した社会の形成」

の4つを基本目標として掲げ、総合的かつ戦略的に施策を実施していきます。

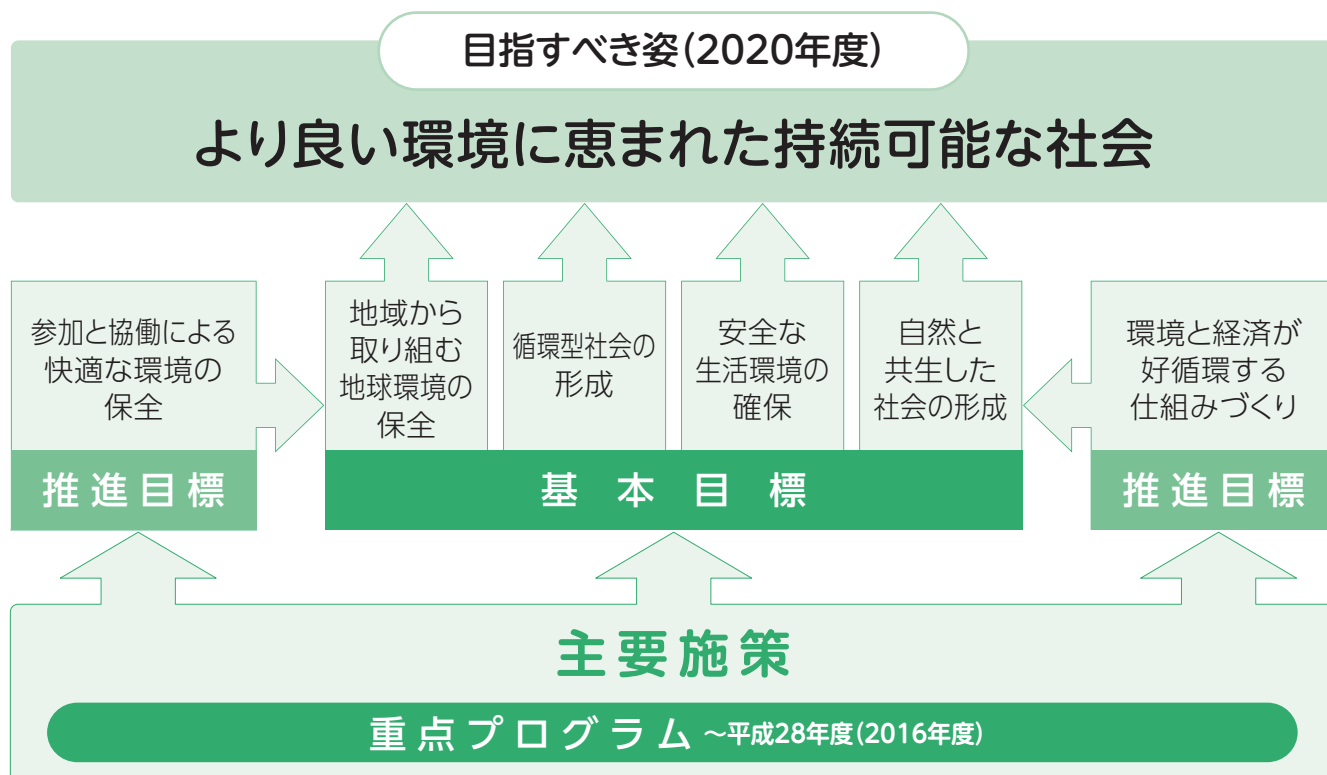
また、これらの基本目標を効果的・効率的に推進していく上で、県民が環境や協働に対する意識を持ち行動すること、さらには、環境と経済が調和し好循環することが大きな推進力となることから、

「参加と協働による快適な環境の保全」

「環境と経済が好循環する仕組みづくり」

の2つを推進目標として掲げ、基本目標を横断する施策を実施することとします。

図2-1-1
計画の体系図



2 目指す将来のイメージ

(1) 環境の側面ごとにみた社会のイメージ

本計画で目指す「より良い環境に恵まれた持続可能な社会」は、環境の側面ごとにみると次のような社会としてとらえることができます。

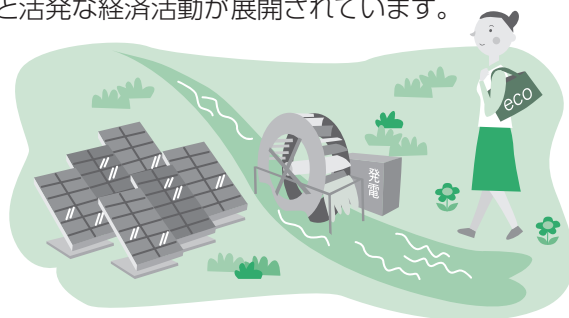
① 地域から地球環境の保全に取り組む社会

すべての県民や事業者が地球温暖化をはじめとする地球環境問題の重要性を共有し、家庭や事業所等において、省エネルギー型機器の導入や節電、公共交通機関の利用等の省エネルギー行動が定着し、資源やエネルギーを浪費しないライフスタイルや事業活動が定着しています。

さらに、NPOや企業など様々な主体による、太陽光・小水力・バイオマスなどの新エネルギーの地産拡大が進んだ結果、地域分散型のエネルギー供給が拡大し、

温室効果ガス排出量も大きく削減されています。

これらの結果、新エネルギーを活用した豊かな生活と活発な経済活動が展開されています。

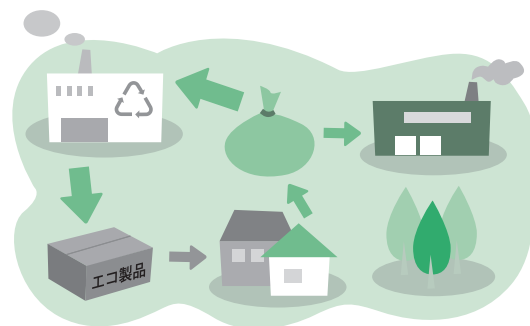


② 資源が効率的に活用される社会

経済成長を最優先した大量生産・大量消費型社会から脱却し、県民・事業者等による、ごみを減らす、再使用する、再生利用するといった自主的な3Rの取組が社会に定着するとともに、バイオマスなどの未利用資源の有効活用やエコ製品の普及が進み、循環型社会が形成されています。

こうした結果、**一般廃棄物***、**産業廃棄物***ともに排出量、最終処分量が大幅に減少する一方で、リサイクル率が大幅に向上し、廃棄物処理による環境への負荷が大

きく低減されるとともに、廃棄物の不法投棄や不適正処理などがなくなっています。



③ 安全な生活環境が保全されている社会

公害防止のための技術導入、測定監視及び公共下水道等の整備が一層進み、大気や河川・湖沼等の水質が改善され、県民の健康に不安を与えない、良好で安全な状態に保たれています。また、ダイオキシン類等の有害化学物質やアスベスト、環境放射線、騒音、振動、悪臭など生活の平穏や快適性を損なう要因は、適切に抑制、監視されています。

併せて、良好な環境を次世代へ継承していくための

意識が醸成され、体制も整い、安全で平穏な生活環境が確保されています。



④ 自然と共生した社会

県民一人ひとりが自然保護や生物多様性の重要性を認識し、県内の優れた自然環境が保全され、地域の特性に応じたよりきめ細かい生態系への配慮によって多種多様な野生生物が生息・生育しています。

森林が持つ多面的機能が県民に豊かな暮らしを提供し、将来にわたる県民共有の財産として、森林の適正な整備や保全が図られています。

また、多くの県民が身近な自然とのふれあいやニューツーリズム*などを通じて、安らぎや潤いを実感しています。



(2) 地域ごとにみた社会のイメージ

本県は、中国山地から瀬戸内海まで変化に富んだ多様・多彩な地域により構成されています。その自然条件や社会環境、人口構成等は大きく異なっており、目指す「より良い環境に恵まれた持続可能な社会」のあり様も、それぞれの地域において異なります。

地域ごとにみた達成すべき具体的なイメージは次のとおりです。

① 中国山地エリア

自然公園*をはじめとして優れた景観や自然環境が保全され、**温泉***、キャンプ、スキーなど、四季折々の自然とのふれあいや、自然を楽しむための県民の憩いの場として親しまれています。整備された豊かな森林は、三大河川の水源やCO₂の吸収源、バイオマスの供給源として重要な役割を果たし、また、こうした森林の重要性が広く知られ、県民共有の財産として、下流域のボランティアや環境NPO等の参加による森林づくりや管理が行われています。

従来からの自然と調和した特色ある農林業とともに、地域の未利用バイオマスを活用した環境ビジネスや自然と親しむ**エコツアー***など、新たな産業が地域経済を支える大きな柱に育っています。



② 吉備高原里山エリア

長い年月にわたる人と自然とのかかわりにより形成されてきた棚田や集落の景観が、ふるさと岡山の原風景として多くの県民から愛されています。多様な生物を育み、ふるさとのシンボルとなっている里地・里山等は、地域の人々の身近な生活環境の一部としてだけでなく、都市に住む人々が自然とふれあう場として、また、環境学習の場として活用されています。



こうした里地・里山は、環境への負荷が少ない**環境保全型農業***生産に積極的に活用されることにより、生物多様性保全を含む多面的機能が維持、保全されています。また、里地・里山など生活と密着した自然環境の管理や水路の維持管理等、一般家庭を巻き込んだリサイクル活動等が、歴史的な伝統行事と同様に、地域を豊かにするための活動として、地域コミュニティによって積極的に担われています。

③ 市街地・田園エリア

都市部は、公園や街路樹などの緑化や水辺づくりとともに、効率的な空間利用が進んだコンパクトで環境負荷が小さく、魅力とにぎわいが感じられる景観が形成されています。また、エコドライブ意識や公共交通機関の利便性の向上等による自動車の適切な利用や、オフィスにおける省エネ意識の定着や省エネ・新エネ機器の積極的な導入により、CO₂の排出量が低下するとともに大気環境や**ヒートアイランド現象***が改善しています。

郊外の住宅地域や田園地域においても、省エネ性能の高い住宅や省エネ型家電製品等の普及とともに、積極的な3Rや**グリーン購入***の実践により、資源・エネルギーの消費やごみの排出が減少しています。また、地域ぐるみで落書きやごみのポイ捨て防止に取り組み、まちの美観や清潔、安全・安心の向上に結びついています。

事業者や工場等は、CSR活動として環境保全面での社会貢献に積極的に取り組み、自らの事業に対しても環境に対する配慮を経営における重要な課題として認識し、環境マネジメントシステムに基づきCO₂や汚染物

質、廃棄物の排出削減、循環資源の利用促進や**環境効率性***の向上など、環境への負荷の低減に積極的に努める一方、環境技術の研究開発や新たな環境ビジネスへの積極的な参入が行われています。



④ 瀬戸内海エリア

下水道の整備等により、生活排水等を原因とする汚濁物質が減少し、瀬戸内海や児島湖の水質が改善しています。また、日本を代表する**国立公園***である瀬戸内海や児島湖の景観や良好な水辺環境を守るため、地域住民やボランティア、環境NPOによる清掃活動や環境学習等が行われています。

瀬戸内海の魅力ある海辺づくりが進むとともに、**藻場・干潟***の再生など海域環境の修復により、魚介類な

どの生息環境が改善しています。この結果、漁業の活性化だけでなく、多くの人々がマリンスポーツや海水浴、海釣り、環境学習等で海に親しむ場が増加しています。

水質が改善した児島湖は、市街地に近い貴重な水辺として、また、野生動植物のオアシスとして、地域住民の憩いの場となるとともに、住民等との協働による**アダプト***活動などが盛んに行われています。



図2-2-1
地域の区分

